

議事録

会議名：第54回中四国学生剣道連盟理事会

- 日時：2016年9月3日 午後1時25分より
- 場所：岡山大学 大学会館 1F ホール
- 構成員：36名
- 参加者：藤原崇郎、渡邊道徳、三浦利雅、木原資裕、大城戸 功、村井慎治、山神眞一、石井博貞、境 英俊、宮川 健、竹内善一、廣畑栄三、矢野宏光、宮本賢作、原川琢至、曾我部敦介、杉若剛志、三好恒平、小松良成、金築佳佑、古田千佳、中西なつみ、三浦和紗、中原 誠、米田 駿、岸本幸大、野津庄平、胡 紫、小松未佳、山中優治（以下委任状により出席と見做す）、福井悦郎、香川直己、宮本理幸、喜多耕平、平崎翔太、山之内智哉、米澤時希、渡邊大輝、以上38名、欠席者：0名
オブザーバーとして、湯村正仁、森 正典、近藤裕樹

上記の通り、全体の3分の2以上の出席があった為、本会議は適法に成立した。

杉若剛志幹事長を議長として議事が進められた。

●記録

氏名：野津庄平

E-mail：info@chushi.xsrv.jp（不明点はこちらへ）

開会の辞

藤原崇郎会長が開会の辞を宣べられ、議題にもある松山大学の不祥事に関する話を全体で考えていく必要があることを述べられた。全日東西対抗試合で中四国の選手2名が優秀選手を受賞したことは、中四国ブロックの士気を高めてくれたことに感謝の意を述べられた。

また、今回の大会も全日本大会団体に繋がっていくために運営を含めて協力を求められた。

Summary：

- 議題1：第53回理事会議事録確認
- 議題2：松山大学不祥事に関して
- 議題3：全日学連「常任理事会」・中四常任幹事会報告
- 議題4：次回リーゼミ企画案
- 議題5：剣友剣道大会について
- 議題6：その他

1. 第53回理事会議事録確認

榊先輩の功労賞の受賞について、翌日の大会に欠席されるため原川先輩が開会式の前に代理で受け取ることとなった旨が石井先輩から報告された。

以上の事項を含め、第53回理事会議事録が異議なく承認された。

2. 松山大学の不祥事について

(1) 別紙不祥事報告書の概要を杉若幹事長が説明した。

- ・3月31日、松山大学に被害学生の保護者がこられたより発覚。この時点では本連盟に報告はなく、松山大学は選手権大会並びに西日本大会に出場していた。
- ・6月6日、大城戸先輩より本連盟に報告され、把握することとなった。この時点で本連盟の対応については、6月16日松山大学の会議において処分が決定されてから検討する予定だったが、被害学生の保護者が全日本学生剣道連盟にこの問題が連絡され、全日本学生剣道連盟の総務委員長の内田先輩より福井先輩に連絡が入り6月17日までに報告しなければならないこととなった。これを受けて本連盟が把握している内容で報告書を作成し、文書にて全日本学生剣道連盟に報告した。
- ・6月18日、藤原会長の指示のもと、愛媛にて会長副会長会議を開催することになり、松山大学松浦剣道部長と大野コーチから説明を聞き、6月25日にこの問題に関する調査委員会を開催することとなった。

(2) 6月25日に開かれた調査委員会に関して山神先輩より報告がなされた。

- ・調査委員会で検討した結果、松山大学からの本年中の大会参加自粛の申し出を受け入れることとした。
- ・全日本選手権大会に出場予定の4名と東西対抗試合出場予定の1名の出場辞退届を出した。
- ・松山大学に対して今後、生活面を含めた指導をしっかりと行うことと指導体制の再構築を検討してもらいたい旨の文書を松山大学に通知した。

(3) 松山大学山中学生理事より

この度の問題について、学生理事にもかかわらず中四国学生剣道連盟への報告が遅れたことに関して謝罪がなされ、松山大学ではこのような問題を二度と起こさないよう再発予防策を実施した。

- ①指導体制の再構築（部内環境の改善とハラスメント行為防止）
- ②指導者及び学生幹部による定期的なミーティングの実施
- ③幹部交代（例年11月実施を6月に行った）

これらの反省を踏まえ、12月の新人大会には参加したいという要望が出された。

- ・全日本学連に報告した内容と整合性がとれるようにして貰いたい。（福井悦郎先輩伝言）
- ・調査委員会の勧告については、真摯に取り組んで頂いているようである。（山神眞一先輩）
- ・松山大学の不祥事ではあるが、中四国全体の問題と捉え、松山大学の取り組みをリーゼミでも活かして、松山大学の努力等を教育的に配慮して見守って行きたい。（山神眞一先輩）
- ・調査委員会の報告を踏まえ、一例ではあるが、7月1日から9月30日までの期限付きで大会の出場権の停止処分をする。（石井博貞先輩）
- ・全日本には12月までの大会を自粛するとの報告書も提出しているので前述の方法は合わない。（木原資裕先輩）

- ・6月26日時点では、全日本への報告は前述の通りではあるが、その後の対応と取り組みを教育的に、変更も含めて、不祥事報告後の初めての理事会として審議してはどうか？（山神眞一先輩）
- ・処分として考えた場合、8ヶ月間試合に出場出来ないのは重たすぎないか？再発防止の取り組みもされているので新人大会以降の出場を認めても良い。（小松良成副幹事長）
- ・大学内で反省を踏まえて色々な取り組みをしているし、自身に置き換えて見ても試合に出ることが出来ない状態での学生剣士としてのモチベーションを保つことの難しさも分かるので、新人大会への出場を認めても良い。（三浦和紗常任幹事）
- ・全日本学連として統一した対応をしたいのは理解できるが、全日本学連を構成している地域連盟（中四国）がどう判断するかが大事で、教育的効果はどちらが高いのか？を判断するのが良い。（藤原崇郎会長）
- ・整合性について様々な意見が出され、理事会としての今回の不祥事について取り纏めがされた。教育的に前向きに考え、松山大学の大会参加自粛を9月5日付けで解除することが承認された。

3. 全日学連常任理事会・中四常任幹事会報告

報告者：三好恒平・杉若剛志

全日学連常任理事会

平成28年6月27日（土）に大阪府立体育会館にて第二回全日学連常任理事会が行われた。

(1) 事業委員会の報告

- ・2020年に東京オリンピックが開催されるため、2019年の優勝大会と2020年の選手権大会が日本武道館で開催することが難しい。2018年に大阪府立体育会館の予約が取れなかった。今後のことを考えて、各連盟で全日本大会を開催することができる会場を探すこととなった。
- ・中四学連としては、平成30年の全日本優勝大会を広島グリーンアリーナ開催で検討する。

(2) 審判委員会の報告

- ・全日本の大会では関東関西の審判員が主だったが、審判員の活性化を図るために他地域連盟の審判員を増やすこととなった。
- ・中四学連は全日優勝大会3名→5名、全日女子優勝大会3名（変更無し）
- ・増加した審判員数の交通費については財務にて検討中。

(3) 財務委員会の報告

- ・省略

(4) 総務委員会の報告

- ・熊本地震義援金について、熊本県内の6大学と大分県の別府大学の計7大学の部員登録費の免除30万円と九州連盟を除く全地域連盟登録部員1人あたり50円を徴収した50万円の計80万円を九州連盟へ。全日本剣道連盟から20万円の支援があり、総額100万円の支援があった。
- ・剣道有功賞について、小倉 肇先輩の推薦書を提出した。

中四常任幹事会（平成28年7月9日、福山大学宮地茂記念館）

- ・熊本義援金について、各大学からは任意で徴収し、不足分は中四国学生剣道連盟から支払うこととなった。
- ・優勝大会について、今年度から最優秀選手だけでなく優秀選手全員を表彰することとなった。優秀選手全員を並べて、会長より最優秀選手に賞状・カップ・メダル授与に併せて副会長他の先輩から同時に授与して貰うことになった。

4. 次回リーゼミ企画案

報告者：小松未佳

- ・2月末に広島県国立江田島青少年交流の家にて予定されているリーダーズゼミナールについて小松未佳学生理事より説明があった。(後に日程と場所が変更になった)

5. 剣友剣道大会について

報告者：宮川 健

- ・12月4日に行われる第18回中四国学連剣友剣道大会について、宮川健先輩より説明を頂いた。この際、大会の出場申し込みについて、昨年度よりホームページから必要書類をダウンロードして行う方法に変更されたことが報告された。
- ・29年3月26日に中四国予選を経て行われる全国大会が兵庫県武道館で開催されることが決定した。
- ・第18回中四国学連剣友剣道大会については、平成28年12月4日に岡山での開催が決定した。前日にはOB稽古会もあるため参加していただくよう依頼をされた。

6. その他

閉会の辞

藤原崇郎会長より、多くの貴重な意見を出して頂いた事への謝辞と、引き続き学生のために立派な組織形成をしていきたいとお言葉を頂いた。

以上の議事を終え、本会は午後2時50分、議長が閉会を宣言して散会した。
上記決議を明確にするため議事録をここに記す。署名人はこの議事録が正しいことを以てここに記名及び押印する。

平成 28 年 9 月 3 日

中四国学生剣道連盟 第54回理事会

署 名 人 宮 本 賢 作

署 名 人 野 津 庄 平



次回 MTG

日 時：2016年12月10日

場 所：広島県立総合体育館 大会議室